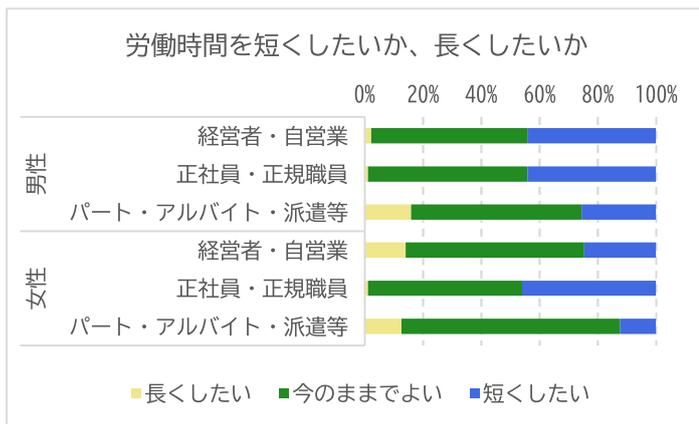


平素より、私ども東京大学社会科学研究所の調査にご協力いただき、ありがとうございます。みなさまにお答えいただいた内容は現在集計・分析を進めております。速報として、調査結果のなかからいくつかを選んでご紹介いたします。

調査へのご協力の感謝とともに、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

パネル調査プロジェクトを代表して
有田伸（東京大学社会科学研究所・教授）

1. 労働時間を短くしたいか、長くしたいかに関する意見について



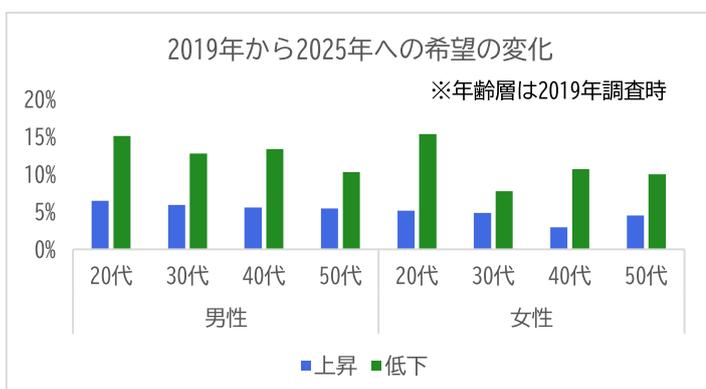
調査では、働いている方に労働時間を短くしたいか、長くしたいかを尋ねています。男女別、働き方別に回答分布をみると、男性では約2%、女性では約7%の方が労働時間を今よりも長くしたいという結果でした。働き方別にみると、パート・アルバイト・派遣等の働き方の場合には長くしたいという回答割合が相対的に高いようです。

2. 孤独感について



生活のさまざまな側面との関連が指摘されている孤独感について、男女別、また友人関係満足度別に得点の平均値を求めました。男女のあいだで孤独感には大きな差がみられず、友人関係の不満度が高いほど孤独感も高いことが明らかとなりました。その一方で、友人がいないと回答した方は若干ですが「不満」グループよりも孤独感の得点が低い結果となりました。

3. 2019年から2025年にかけての日本社会に対する希望の変化について



この調査では同じ質問を複数回お尋ねすることで、みなさまの意見や行動の変化を求めることができます。「日本の社会には希望がある」という意見への是非について、2019年と2025年のあいだで変化をみたところ、5~6%の方は希望が「ない」から「ある」（上昇）に変化しました。一方、希望が「ある」から「ない」（低下）に変化した方は10%前後となりました。